

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ワコーレ津雲台計画	階数	地上5F
建設地	大阪府吹田市津雲台5丁目20番85	構造	RC造
用途地域	第一種中高層住居専用地域、法22	平均居住人員	76人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年8月 予定	評価の実施日	2017年7月31日
敷地面積	1,257 m <sup>2</sup>	作成者	株式会社IAO竹田設計 大阪第二
建築面積	651 m <sup>2</sup>	確認日	2017年7月31日
延床面積	2,128 m <sup>2</sup>	確認者	株式会社IAO竹田設計 大阪第二



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.1** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです。

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** Qのスコア = 3.0

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.8

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.0

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.1

**LR 環境負荷低減性** LRのスコア = 3.1

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.5

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.7

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b>	計画地は阪急千里線山田駅から徒歩3分ほどの立地である。敷地周辺は住宅地となっており、植栽との調和する外観を目指し景観に配慮し、また機能的で快適な居住環境を形成する。	<b>その他</b> 0
<b>Q1 室内環境</b>	集合住宅という用途から、騒音等に配慮した計画とし、また、居住空間の質を確保する為に自然採光・自然換気・自然排煙を軸とし、機械設備を用いた環境整備を行う。また、気密性・断熱性についても過不足なく計画	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 立地特性を把握し、より快適な生活空間となるよう、植栽計画を行い環境の向上に努め、景観への配慮、また、地域を含めた防犯性・安全性の確保に努めている。
<b>LR1 エネルギー</b>	照明設備システムなどにより環境負荷低減を試みている。	<b>LR3 敷地外環境</b> 敷地境界沿いに緑化を行い、建物表面の高温化抑制等を考慮する事で、敷地内の環境にとどまらず、周囲の環境や地球温暖化への配慮を行っている。
<b>Q2 サービス性能</b>	長期的に快適な利用が可能となるように、意匠・構造・設備が一体となり、建築物全体の機能や耐久性、将来性、長期的な変化への対応を追求している。	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>	シックハウス等の健康被害を回避するために有害物質を含まない資材を採用したり長期的に安全、安心な暮らしの実現に努めている。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

# 大阪府建築物環境配慮評価システム 2017年版 大阪府の重点評価(結果)

受付番号

H29-0054

Osakafu-新築・既存 2017V1.0

<b>【建物概要】</b>	建物名称	(仮称)ワコーレ津雲台計画					
	建設地	大阪府吹田市津雲台5丁目20番85号					
	用途/区分	集合住宅					
<b>【評価結果】</b>	CASBEE 総合評価					B+	
	CO2削減					4	
	省エネ対策					4	
	みどり・ヒート アイランド対策					2	
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—
	エネルギー消費量の報告					対象外	

【評価項目】				
省エネルギー対策		① CO2削減		
項目		評価内容		
		スコア	評価	
① CO2削減		CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価	3.6	4
② 省エネ 対策	外皮性能	CASBEE「Q1-2. 1. 2」 のスコアによる評価	建物全体 4.0	4
	建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価	4.0	
	自然エネルギーの利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価	3.0	
	設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価	3.6	
	効率的運用	CASBEE「LR1-4」のスコアによる評価	3.0	
	水資源保護	CASBEE「LR2-1」のスコアによる評価	3.4	
	エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。	報告する 報告しない	
みどり ヒートアイランド対策		③ みどり・ヒートアイランド対策		
項目		評価内容		
		スコア	評価	
生物環境の保全と創出		CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価	1.0	2
敷地内温熱環境の向上		CASBEE「Q3-3. 2」のスコアによる評価	3.0	
温熱環境悪化の改善		CASBEE「LR3-2. 2」のスコアによる評価	3.0	
その他				
		技術の名称	考慮事項	
先進的技術の導入				
特に配慮した事項				